



慶應義塾大学ビジネス・スクール

株式会社 シマノ

シマノは、変速機、フロントギア、ブレーキ、ハブなどといった自転車部品を主に、リール、竿などの釣具、冷間鍛造部品の三つの分野を製造し、販売している企業である。部門別の割合は自転車部門部品 74.5%、釣具部門：23.8%、その他（冷間鍛造事業、アクションスポーツ事業など）1.7% [財務データ（2007年12月31日現在）Shimano Fact Sheet 2008] である。シマノの自転車部品はプロ選手だけでなく、一般自転車ユーザーにも愛用されていると知られ、「自転車のインテル」と呼ばれるようになった。シマノの自転車部品は日本企業ではトップクラスであるだけでなく世界市場でも高いシェアを維持している。

5

10

会社の創業と社歴

大阪府堺市に本社のあるシマノは、小さなフリーホイール創業から始まり、現在の世界最大・最強の自転車パーツのメーカーとして知られるまでになった。ここに至るまで順調な道ばかりを歩んだわけではなかった。シマノの社歴は、戦前の不況期の1921年に島野庄三によって「島野鉄工所」を創業したことから始まる。島野庄三氏は3人の子供、島野尚三（長男）、島野敬三（次男）と喜三（三男）に「海の向こうには必ず行くんや。世界の島野になるんや。」という夢を語っていたという。この夢は後に、次男の喜三氏が実現した。最初の商品はフリーホイールに、「3.3.3.」というブランドを名付けた。当時フリーホイールの高級品のB.S.A.社が「B.S.A.」というトレードマークを使用していたことに影響を受けた。このブランドは世界に羽ばたくことになった。1930年代には「島野のフリー」という名前が全国に広まり、輸出までも伸びた。当時、戦前における堺の自転車工業の最盛期であり、シマノはほとんどの大手自転車メーカーと取引があり、フリーホイール生産は全国シェアの6割を占めていたという。

15

20

本ケースは、余田拓郎と Chuansatian Napassawan がクラス討議の資料として作成したものであり、経営管理上の適切または不適切な処理を例示するものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8523 神奈川県横浜市港北区日吉本町2丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

Copyright©余田拓郎、Chuansatian Napassawan（2008年1月作成）